

令和6年2月29日

令和5年度 学校評価

《 今年度の基本方針 》

① 学力向上の推進

～「確かな学力」深く考え、自ら学び考える子の育成～

② 体力向上の推進

～「健やかな体」心身ともにたくましい子、自分の命は自分で守る子の育成～

③ 仲間づくり、集団づくりの推進

～「心豊かな子」明るくやさしい子、思いやりのある子の育成～

④ 規範意識向上の推進

～規律ある行動ができる子の育成～

1. 学力向上の推進 ～「確かな学力」深く考え、自ら学び考える子の育成～

研究テーマを「意欲的に学び、心豊かにたくましく生きる子どもの育成」、研究副主題を「主体的・対話的で深い学び」に設定し、意欲的に学び、心豊かにたくましく生きる子供の育成を目指した。今年度は教科を高学年は外国語、中・低学年は外国語活動に絞り、奈良県小学校外国語研究会のテーマに沿って具体的な授業づくりに取り組んできた。

(1) 児童アンケートより（数字は肯定的な回答の割合で、単位は%）

項目	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全体
① 学習時間に、自分の思ったことをクラスの友だちに伝えることができましたか	81	74	77	81	84	76	79.1
② タブレットを使った授業は、わかりやすいですか	88	89	92	94	90	98	92.3

(2) 保護者アンケートより（数字は肯定的な回答の割合で、単位は%）

項目	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全体
① 学校は、授業やその他の場面で、自分の思いや考えを伝えられるように取り組んでいる	89	77	84	75	78	80	80.2
② 学校は、ICT 機器等を活用した楽しく工夫のある授業を通して、子どもの学ぶ意欲や確かな	86	72	82	81	87	87	82.2

学力の育成に取り組んでいる							
---------------	--	--	--	--	--	--	--

「授業やその他の場面で自分の思いや考えを伝えられる授業」は、肯定的な回答が80.2%だった。今後の社会生活の中で協働する場面が増えてくると思われるため、継続して指導を行う必要があると考えている。また、ICT 機器はツールであるので、主体的・対話的で深い学びの推進のために、「伝え合う力」の育成のための利活用を進めていく。

(3) 全国学力・学習状況調査の結果より

国語・算数・理科とも、全国・奈良県平均正答率を上回った。また、昨年度までの授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表したとの回答が73.3%で、全国よりも9.6ポイント高かった。

しかし、国語では、目的を意識して中心となる語や文を見つけて要約することや、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけることができている。一方で、図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することや、目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめて文章に書くことに弱さがある。

算数では、全国平均よりも上ではあるが、正三角形の意味や性質についての理解や、高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述するところに弱さが見られた。

見えてきた課題に対し、学習場面で意識的に指導を行う必要がある。

2. 体力向上の推進

～「健やかな体」心身ともにたくましい子、自分の命は自分で守る子の育成～

体育の授業や外遊び、学校行事等を通して、児童の運動に親しむ態度を育成するとともに体力向上を図ってきた。そのために、休み時間の外遊びの奨励や、委員会の児童による体力づくりのイベントなど、継続的に取り組んだ。

(1) 児童アンケートより

項目	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全体
① 体育などで、運動することは楽しいですか	97	89	89	89	87	80	87.6
② 休み時間に、外で元気に遊んでいますか。	97	74	71	67	30	26	57.1

(2) 保護者アンケートより

項目	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全体
①学校は、体育の授業や行事等を通して、子どもの体力向上に取り組んでいる。	86	85	89	84	77	84	84.2

児童アンケートでは、運動が楽しいと回答した児童は 87.6%で高い結果となった。しかし、外遊びは、高学年になるほど、減少する傾向がある。委員会活動や行事の実行委員会等で休み時間の外遊びができないことも多いが、生涯健康に生活するために、体育委員会によるスポーツイベントへの呼びかけなど、運動が苦手な児童でも外に出て遊びたくなる工夫をし、外遊び奨励の声掛けは続けている。一方で、個に応じた配慮、対応も併せて意識しておく必要があると思われる。

3. 仲間づくり、集団づくりの推進

～「心豊かな子」明るくやさしい子、思いやりのある子の育成～

すべての児童がいきいきと活動でき、自分を大切にするとともに他の人も大切にすることを育成に努めた。いじめアンケートの活用や児童の実態把握から、個に応じた細やかな指導、支援を行った。

(1) 児童アンケートより

項目	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全体
① たてわり班の遊びは楽しいですか	94	87	87	81	75	65	80.3
② 友だちとなかよく協力して学校生活をおくれていますか	97	87	89	90	89	97	90.2
③ 学校で、いのちの大切さを学んでいますか	79	88	92	87	85	90	87.8

(2) 保護者アンケートより

項目	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全体
① 学校は、学校の生活や行事等を通して、仲間を大切にし、お互いを高め合う力を育てている	92	82	91	82	83	93	86.9
② 学校は、思いやりの心を育て、	83	79	86	79	75	90	82.0

自分も他の人も大切にできる 子どもの育成に取り組んでいる							
---------------------------------	--	--	--	--	--	--	--

今年度も、自尊感情を高め、仲間と協力し合い、共に伸びる喜びを味わえるような集団づくりを目指して様々な活動に取り組んだ。朝の集いの話や道徳、学級活動などを通して、周りの友達の気持ちを考えることができ、お互いの良さを認め合える子どもたちを育ててきた。

一方、現代社会では、LINE や X など SNS が世間に浸透してきた。そのため短い言葉だけで表現したり、顔を合わせて話をする機会が減ったりしている。このことは、子どもたちの世界でも例外ではない。最近では人との距離感やコミュニケーションの取り方がつかめていない子どもが増えてきたように思う。これからも人との関わる場面を増やし、お互いの思いを理解し、伝え合う活動を意識的に行い、自分の思いを大切にするとともに人の気持ちも大切にできる児童に育てていきたい。あわせて、様々な支援を受けている、周りの人に対する感謝の気持ちをいつも持てる児童に育てていきたい。

4. 規範意識向上の推進 ～規律ある行動ができる子の育成～

規律ある行動ができる子どもの育成、友達の良さを理解し、仲間と共に励まし合い高め合う集団づくりに努めた。そのために、生活目標を揚げ、目標達成に向けた指導を全職員で共有しながら進めてきた。

(1) 児童アンケートより

項目	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全体
① すすんであいさつをしていますか	84	80	80	80	82	77	80.2
② 廊下を走らず歩いていますか	81	77	81	68	72	69	73.7
③ 掃除時間は、いっしょうけんめい掃除をしていますか	94	96	91	94	90	87	92.0

(2) 保護者アンケートより

項目	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全体
① 学校は、基本的な生活習慣を身に付け、規律ある行動ができる子どもの育成に組んでいる	94	88	95	91	80	88	89.5

児童アンケートでは 挨拶は多くの学年で肯定的な回答が多かったが、あまりあいさつができていないと感じている児童もいる。自ら挨拶できる子は増えてきている一方で、朝の通学路で声をかけても友達と夢中になってしゃべっていて気付かなかったり、恥ずかしいから黙って通り過ぎたりする児童がいたりする。引き続き挨拶ができる子どもの育成に取り組んでいきたい。

廊下を走らず歩いているという項目の肯定的な回答は低く、また、実際走っている児童は多くいる。安全指導は全職員が一丸となって行うことで、けがの防止につなげていく必要があると強く感じている。

今後も規律ある行動や基本的な生活習慣の確立に向けて、家庭と連携しながら取り組んでいきたい。

5. その他

(1) 保護者アンケートより

項目	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全体
学校は、保護者や地域と連携し、「地域と共にある学校づくり」に取り組んでいる。	82	75	79	75	68	74	75.5
学校は、ホームページやツイッター、学校便り、学年通信、懇談会等を通じて、教育活動や子どもたちの様子を伝えている。	85	82	91	85	87	96	87.3

「地域とともにある学校作り」については、肯定的な回答は75.5%で、「わからない」が16.5%だった。PTAが学校運営協議会の内容をまとめて配布してくださったり、学校便りで紹介したりしているが、保護者にうまく伝わっていないと思われる。登下校の見守り、野菜作り、昔遊びなど、地域と連携した取り組みなどを、学校便りやホームページ、Xなどを通して、さらに地域に発信して行く必要があると考える。また、地域の方と協働して行える取り組みを今後も考えていきたい。

また、普段の学校の様子は保護者にとって知りたいことだと思われる。参観・懇談を通して様子を伝えるとともに、何気ない日常もSNS等で発信していけるよう取り組んでいきたい。